

県広報

とやま



村賀利記とみさふろーず

利賀村

特集 魅力あふちづくり

帆船海王丸篠塚船長

“富山平野の都市と農村”

富山大学教授 北林 吉弘

富山平野の都市と農村の結びつきはもはや対立したものとしては捉えにくい状況にある。いつでもだれでも自由に都市の機能を利用することが可能になり、行政区域としての市域に住むことはもはや無意味になった。富山平野の農村はいまや郊外化しつつある。都市との相対的關係が変化して、いつのまにか農村自体が都市圏の中に組み入れられ、経済的にも文化的にも、あるいは社会的にさえ都市の生活を行っているのである。

近い将来、農村は消滅するという人がいる。しかし、農村が消滅するというのは、人口がすべて市街地へ移動するという解釈は当たらない。むしろ、従来の都市と農村が同時に変質して互いに接近しあい、次第に一体化していくとみるのが妥当ではなからうか。

これからの都市は十分な空間と緑を取り入れる方向に進むべきで、居住の型も次第に拡散されたものに変化していこう。高速交通体系や電話・コンピューターなどが、分散して居住していても、すぐに交流できる条件を生み出すことはまちがない。人間は本来、必要に応じて集まれる程度に分散して住むというのが理想ではなからうか。アメリカの都市地理学者ガトキンドは都市の将来像を田園の

中に小さなコミュニティが無数に点在する形を想定し都市の分散と非集中化の必要性を強調している。都市はサービス・管理・情報の中心としての機能を持つべきであろう。

一方、農村の都市化とは、農村における地域社会の再編成とみてよい。農村コミュニティのイメージとして小・中学校、診療所、保育所、公民館などの公共施設があり、上・下水道、スーパー、工業団地などが整備されていることである。この農村コミュニティと中心都市を結ぶ幹線道路網が完成すれば、都市への通勤者も農場へ出向く農民も、ともにサラリーマン化し、農村といっても、なんら都市と変わるところはない。とにかくこれまでの農村のイメージを根本的に変革することにならう。モータリゼーションの進行に伴って一日行動圏は拡大し、人々の経済・社会活動は一段と広域化し、流動化しつつある。現に富山平野の農村の若者たちは気軽に車で都市の各種施設へ駆けつける。もはや地方都市にとって、農村は完全に都市の一部になっている。テレビの電波は、東京の流行をあっという間に全国を風靡する。富山平野における都市と農村の一体化現象は今後一段と急速に進むことはまちがない。



“絵は私の希望です”

鉄板に描く画家 橋本英圀さん

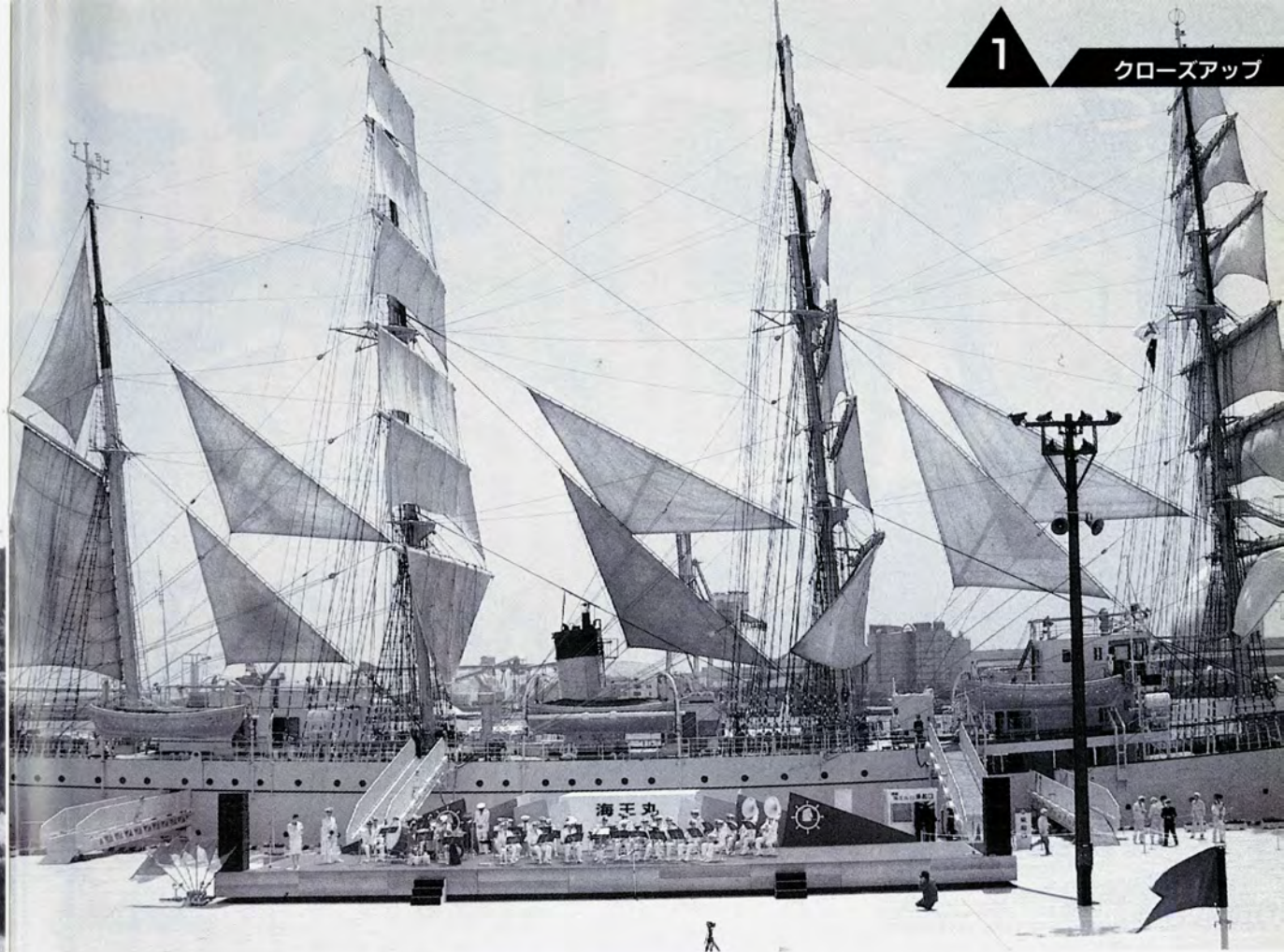
「鉄は曲げたり、焼いたり、穴をあけたりすることによって、立体感や奥深さをより一層強く表現することができます。今、鉄板をキャンバスに使うユニークな画風で注目を浴びている宇奈月町の橋本さん。鉄工所を営む傍ら、絵の制作に取り組む多忙な毎日をご過ごしています。

絵に取り組んだのはわずか二年半前ですが今年一月に、現代芸術国際A U展の入選を果したのを始め、フィーターナル国際美術展など各種の展覧会で入選しています。また今年四月には、大阪で開催中の花の万博に作品を出展するなど、その精力的な活動には目を見張るものがあります。

「絵は私の友だちであり、相談相手です。絵に語りかけながら、これまでの自分の人生を描いています。そういった意味では、絵は私にとって憩いであり、やすらぎであり、希望ですね」と語る橋本さん。この絵に対する一途なひたむきさと激しい情熱は作品を通して見る者に伝わってきます。橋本さんの絵は、空想画とか、抽象的心象画と言われ、怒り、喜び、悲しみ等、人間の感情や気持ちを率直に表現した作品が大半を占めます。

「誰にも真似のできない、私独自の絵の世界を作って、歴史に一頁を残したい。今後の抱負を語る橋本さん。そのユニークで斬新な画風には、これから、一層大きな期待が寄せられます。





「帆船海王丸」一般公開スタート



大野明運輸大臣らを迎え盛大に式典



マーチングドリル演奏も一。

多くの県民が心待ちにしていた「帆船海王丸」が富山新港北埠頭で一般公開されました。

四月二十八日のオープニングには、ボランテアによってすべての帆が一杯に張られた海王丸をバックに大野明運輸大臣、中沖豊富山県知事ら多数の来賓を迎えての記念式典が盛大に行われました。引き続き船内見学に移り、半世紀の歴史を忍ばせる船内の器具や調度品、海の男たちが夢を語りあつた船室、赤ジュータンを敷き詰めた豪華な船長室などが人々の目を引いていました。

五月六日までは総帆展帆をはじめ親子ふれあいチャレンジ甲板みがき、ミニ海鮮まつり、プラスバンド等のマーチング・ドリル演奏、各地の名だたる太鼓の競演など多彩なオープニングイベントが実施され、この期間中に二十九万人もの人が会場を訪れ「海の貴婦人」の美しさに魅せられていました。



まごころ再発見

「知事のまちなわり」大門町



▲ふれあいの里で給付け



▲農村環境改善センターにてふれあいゲートボール

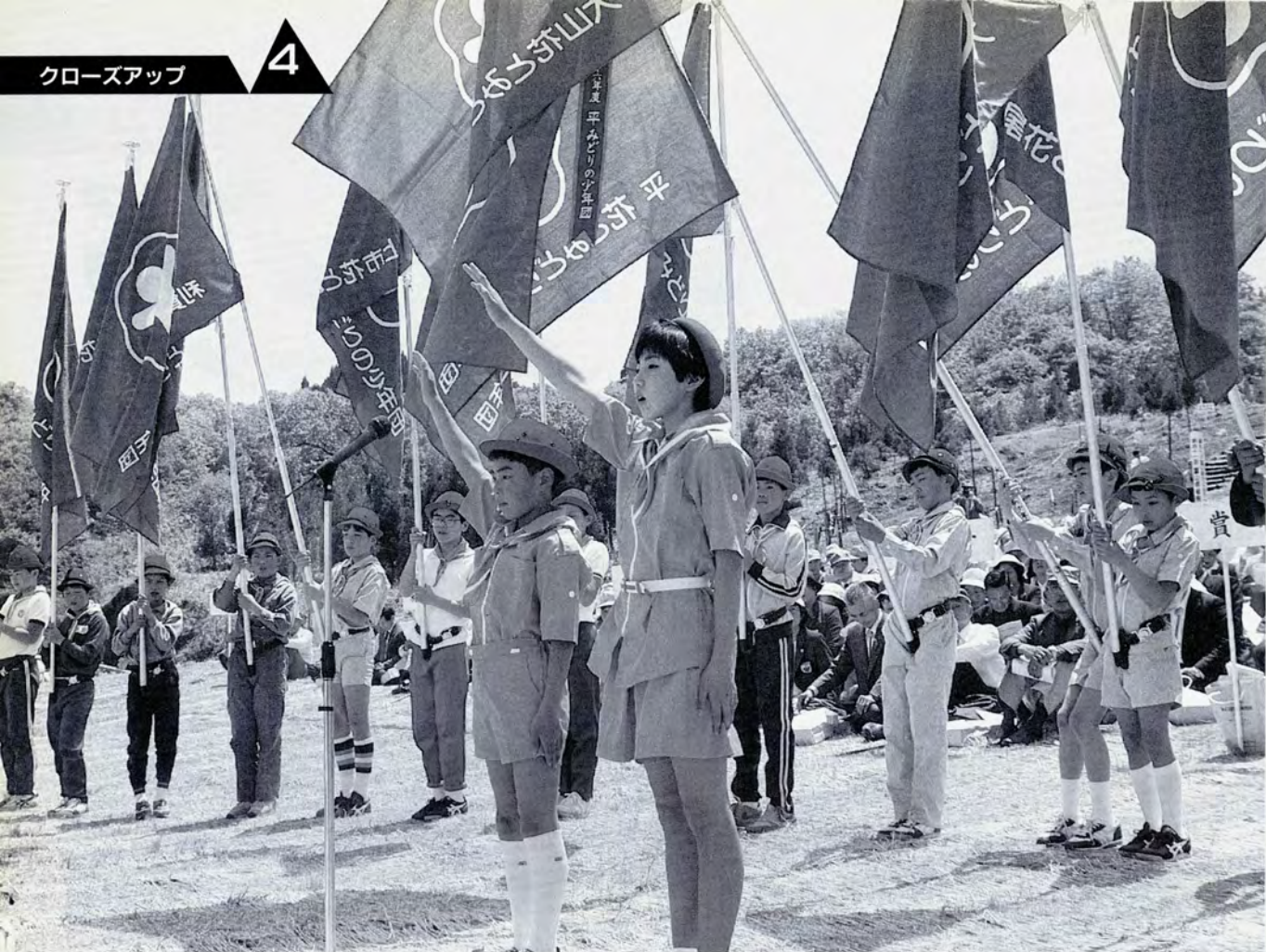


▲高度利用集積ほ場整備地区

今年第一回目の「知事のまちなわり」が四月二十日大門町で行われました。小杉流通業務団地の見学に続いて、住民が陶芸などを楽しむ文化施設「ふれあいの里」を訪れ、この日最初のふれあい対話。おいしい草餅に舌鼓を打ちながらのなごやかな懇話となりました。串田新遺跡では幼稚園児に囲まれ、摘みとったばかりのタンポポなどの花束のプレゼントを受けた知事は終始顔をほころばせていました。

午後からは、農村環境改善センターを視察し、地元の人達に交じって、ゲートボールを楽しみました。続いて訪れた下条地区の高度利用集積ほ場整備地区では、今後の農業のあり方などについて積極的な意見交換がなされました。また、大門町総合会館での婦人ボランティアグループとのふれあい対話では、高齢化社会への対応策やゴミ公害さらには新幹線誘致など様々な問題について活発な意見交換がなされました。

この他にも、中小企業団地や町営の公衆浴場であるコミュニティセンターなどを訪問し、地元の人たちとのふれあいのひと時を過ごしました。



未来に残そう豊かな緑

第41回富山県植樹祭開催

最後に、「日本一の花と緑の県づくり」をめざして力いっぱい進める」との大会宣言が読み上げられ、植樹にうつりました。用意された、カツラ、ヤマザクラ、コブシ、シラカバなど八種類の苗木、千五百本が、参加者の手で一本ずつ入念に植え込まれました。

最後に、「日本一の花と緑の県づくり」をめざして力いっぱい進める」との大会宣言が読み上げられ、植樹にうつりました。用意された、カツラ、ヤマザクラ、コブシ、シラカバなど八種類の苗木、千五百本が、参加者の手で一本ずつ入念に植え込まれました。

最後に、「日本一の花と緑の県づくり」をめざして力いっぱい進める」との大会宣言が読み上げられ、植樹にうつりました。用意された、カツラ、ヤマザクラ、コブシ、シラカバなど八種類の苗木、千五百本が、参加者の手で一本ずつ入念に植え込まれました。

最後に、「日本一の花と緑の県づくり」をめざして力いっぱい進める」との大会宣言が読み上げられ、植樹にうつりました。用意された、カツラ、ヤマザクラ、コブシ、シラカバなど八種類の苗木、千五百本が、参加者の手で一本ずつ入念に植え込まれました。



▲新婚カップルも植樹祭に参加



花博会場は富山色でいっぱい



▲立山マンダラ庭園



▲金賞を受賞したレインボーチューリップ

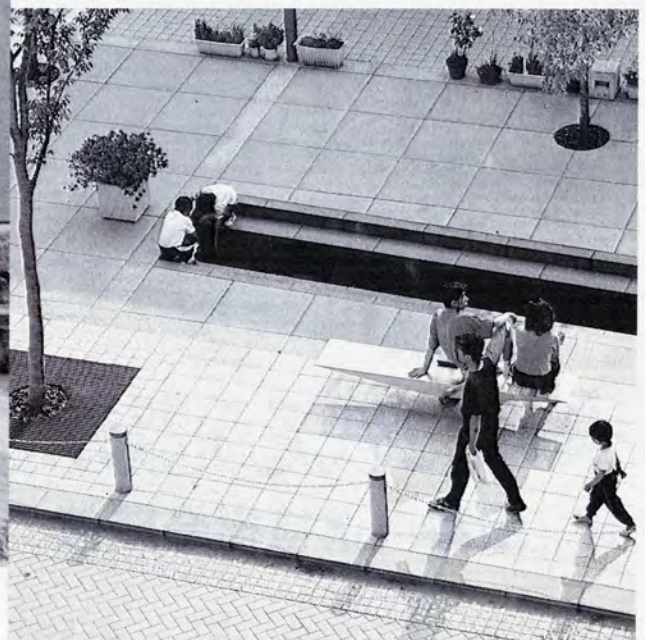
一方「富山県の日」にあわせて、観光物産展が五月一日まで開催され、展示即売された県の特産品に長い列ができるなど、この日はやはり、花博会場全体が富山色に埋めつくされました。

一方「富山県の日」にあわせて、観光物産展が五月一日まで開催され、展示即売された県の特産品に長い列ができるなど、この日はやはり、花博会場全体が富山色に埋めつくされました。

一方「富山県の日」にあわせて、観光物産展が五月一日まで開催され、展示即売された県の特産品に長い列ができるなど、この日はやはり、花博会場全体が富山色に埋めつくされました。

一方「富山県の日」にあわせて、観光物産展が五月一日まで開催され、展示即売された県の特産品に長い列ができるなど、この日はやはり、花博会場全体が富山色に埋めつくされました。

魅力あるまちづくり



以前、日本開発銀行がまとめた「豊かさ指数」で、富山県は全国第二位でした。これは所得・時間・空間のゆとりや余暇活動、暮らしの安心・安全などの指標を指数化したもので、富山県はこの指数の中でも特に、住宅環境や都市公園、道路整備等の都市機能整備状況の面をみた「空間のゆとり」が、際立って高くなっています。

こうした「ゆとり」や「やすらぎ」といったより快適でうるおいのある生活環境に対する県民のニーズは、今後ますます高まるものと考えられます。

県では、県民総合計画の大きな柱の一つである「魅力ある郷土づくり」の一環として、道路・公園・下水道などの都市施設の整備を進めるとともに、「とやまURUO環境づくり」を進めています。

- 調和のある……UNITEED
- 地域性のある……REGIONAL
- 洗練された……URBANE
- 独創性のある……ORIGINAL
- 国際性豊かな……INTERNATIONAL

中でも、地域の伝統を生かしたまちづくり、新しい感覚のまちづくり、優れた景観を生かすまちづくりの実現を図るため、「まちづくりモデル事業」や「魅力ある都市景観づくり推進事業」などを実施して、地域の個性や住民の創意工夫と活力をいかしたまちづくりを推進しています。



まちづくりモデル事業

住民と市町村が一体となり、まちづくりに取り組んでいる地区を「推進地区」に指定し、施設整備を実施しています。昭和五十八年度からスタートして、これまで福光駅前や小杉町下条川千本桜など十四地区で整備が行われており、今年も福岡町岸渡川周辺や井波町ふれあい広場など十四地区の整備が予定されています。

魅力ある都市景観づくり推進事業

魅力のある景観づくりを行うための基本方針の策定やモデル事業を実施しています。既に小矢部市など6市町村が、「都市景観形成ガイドプラン」を策定し、今年も2市で策定の予定です。

またモデル事業は、富山市高志会館周辺・高岡市八丁道など4箇所で行っています。都市景観に大きく影響する屋外広告物については、アドバイザー制度を取り入れるなど

宇宙からすてきなこの街見えるかな

(注) この標語は平成元年度まちづくり標語特選作品です。(一般の部)

して、適切な規制・誘導を進めるほか、これからは夜間の都市景観の向上についても積極的に取り組んでいきます。

まちづくり月間

まちづくりに対する理解を深めていただくため、毎年六月を「まちづくり月間」としています。

この期間中には、シンポジウムの開催・標語の募集・写真コンテストなどいろいろな企画を実施しますので、みなさんの参加をお待ちしています。

自分が生活しているまちが、どうすれば魅力ある住みよいまちになるか、この機会に考えてみてはいかがでしょうか。

90まちづくりシンポジウム富田

◆ 講演 演 蓑原 敬(都市評論家)

◆ 開催日時 七月五日(木)午後一時〜四時

三十分

◆ 会場 小矢部市総合会館

※入場は無料です。

◎講演・パネルディスカッションを通して、皆さんもまちの景観について考えましょう。

◎応援します、富山県まちづくりモデル事業

花と緑にのびのびと育まれた町へ

四方校下自治振興会



四方地区は、昔から「魚のうまい町」として知られ、漁業が栄える他、全国に誇る越中売薬の町として繁栄してきました。

しかし、近年人口が減少し、漁業、農業、家庭薬配置業、サラリーマン等が混在し、コミュニティづくりの意識が低くなり、加えて射水線の廃止に伴い、市中部から取り残されると言う危機感が次第に強まってきました。

昭和五十五年の、この射水線廃止を契機として、四方校下自治振興会を中心に四方地区総合計画委員会(現在は四方地区振興計画委員会)が設置されました。委員会は、活力ある、住みよい、四方をつくるために、を目標として、昭和五十六年十二月より、様々な検討を重ねてまちづくりの計画書を作り始めました。

まず最初に、住民の声をまちづくりに、という発想から、地区住民によるアンケート調査を実施しました。これは、

伝統のまちなみを21世紀へ

岩瀬大町通りまちなみ整備部会

江戸時代に北前船の積み下ろし基地として栄えた富山市岩瀬地区の岩瀬大町通り。藩政時代のまちなみが残る、富山市内では数少ない非戦災街区です。この通りは江戸時代から明治時代にかけて北前船で賑わったことにより、文化的遺産や建築物が随所に見られます。

「今後、『まちづくり憲章』等を制定してまちなみの保全と魅力ある景観づくりを力を入れていきたい。」と部会長であり、かつ大町々内会長でもある飯野昭男さん。づくりの起爆剤となれば幸いです。」と語る飯野さん。ま



この古い歴史を持つまちなみを生かしながら魅力ある景観づくりを進めようと昭和六十年に「岩瀬まちづくり総合対策協議会」の部会として、「大町通りまちなみ整備部会」が設置されました。部会では、大町通りの基調となる色彩を住民全体による意見交換により、決定推進するなどまちなみの整備や景観づくりに積極的に取り組んできました。

現在、大町通りは、インターロックング舗装され、落ち着いた茶系色のトーンで統一されています。また、街路灯もクラシック調の灯具が使用され、夜の通りはたいへん風情があります。さらに、通りの中央には三百平方メートルの岩瀬大町公園があり、岩瀬地区の人々の憩いの場となっています。また、公園の中には岩瀬のシンボルとして、北前船(青銅製)のミニチュメントが設置され、岩瀬展望台や北前船(回船)問屋・森家を訪れた人たちが帰りに見学したりしています。



「大町通りのまちづくりが、岩瀬全体のまちなみづくりにつながる。」と語る飯野さん。ま

地区住民が、四方をどんなまちにしたいのか、どんな施設を望んでいるのか、射水線の跡地利用はどうすればよいのか等計画の重要な柱を、住民自らが選択するという基本方針を示すものでした。このアンケート結果、住民は緑につつまれた住宅地区を一番望んでいました。次に町づくり相談会を通じて、住民の意向を汲み上げ計画に反映させました。そして、さらに町内会への説明会や広報活動などにより、住民の連帯意識やまちづくり意識の高揚を図りました。

この結果、昭和五十九年三月に、魅力あるまちづくりの総合計画書が作成されました。そして、この計画書に基づき、地鉄射水線の跡地を利用して、打出から四方荒屋まで、延長七百五メートルのサイクリングロードに、植樹が行われ、ベンチやシェルターなどが設置されました。こうして、計画の第一歩が踏み出されましたが、まだ旧四方小学校跡地の四方公園構想や、地鉄射水線の車庫跡地の保育所構想など、今後、取り組む必要がある計画も山積しており、なお一層の住民運動が期待されています。

「海浜公園の着手や、四方漁港の整備が進む中で、海とのふれあいを大切にして、個性豊かな、魅力あるまちづくりを進めてゆきたい。」と語る、自治振興会会長の蛇谷栄一さん。花と緑につつまれた、海浜都市四方。こんなキャッチフレーズで呼ばれる日も、案外遠くないのかも知れません。

まちなび20年

高岡青年会議所

万葉のふるさと、二上山の木々の若葉が目眩しい豊かな自然に抱かれた高岡。この高岡に青年会議所の灯がともり二十年の歳月が過ぎました。

昭和四十五年、会員九十九名でスタートした高岡青年会議所は、その時代と共に新しい呼吸を繰り返して、現在二百余名の会員を有する青年会議所として発展しています。

この間、同会議所は明るく豊かな社会づくりの一環として、地域に密着した運動を展開しながら、「素晴らしいふるさと高岡」の実現に向けて力を注いできました。特に設立以来、魅力あるまちづくりに関して幅広い活動を行っており、最近では、市民を巻き込んだのまちづくりシンポジウムやフォーラムを開催するなど、積極的な普及・啓蒙活動を展開しています。県の委託事業の88都市景観連続フォーラムについても、企画、立案から運営に至るまで経済面、時間面、人員面等あらゆる分野で積極的に活動し、大成をおさめました。

こういった、様々な活動が認められて高岡青年会議所は平成元年度「まちづくり月間」における、「まちづくり功労者」建



設大臣感謝状を受賞しました。

「今後も、市民の共感を求め、明るい豊かなまちづくりに努力していきたい」と佐野邦明理事長。これからはますます積極的活動が期待されます。



人と人とのネットワークを大切に 入善まちづくり会議

昭和六十二年五月、「個性と魅力あふれるまちづくりを自分たちの手で」と、町民総参加を目指した入善まちづくり会議が結成されました。同会議は初め町役場、青年会議所などの有志十人足らずが、入善町についての夢を語る集いを定期的に開催しているうちに構想されたものです。「語っているだけでは何も生まれません。実際に、何か具体的なものを作ろう」という声が強くなり、発足の運びとなりました。

同会議は、入善町の隠れた名所等を視察して歩く「まちづくりウォッチング」を始めたり、各種広報による会のPR、「立志登山」等の独自のイベントを行ったりと、様々な活動を続けてきました。また町立図書館に、「まちづくり図書コーナー」を設置するなど、行政とタイアップして、住民意識を高めることにも努めてきました。月二回の定例会と、四つの部会による活動、継続性ときめ細かさが、一歩一歩着実に成果をあげています。

「魅力あるまちづくりにもっとも必要なことは、そのまちに住んでいる人が、時間とお金をかけて、真剣に取り組むことです」と代表幹事の吉田昭さん。「そのために、いかにして住民意識を高めるか



が、我々会議の課題です。人と人とのネットワークを大切にして、足もとを見つめながら、地道な活動を続けていかなければなりません。

今年で四年目を迎えた入善まちづくり会議。会では、「一日一人十円で町づくりに参加してみませんか」をキャッチフレーズに多くの会員を募集しています。また、今年の最大事業である、十一月開催予定の「まちづくりシンポジウム」では、「二十一世紀のまちづくり」をテーマとして多くの町民の参加を求めています。豊かで住みよいまちづくりを目指して、今年度はステップの年です。

「ふれあい広場」は心のオアシス

大沢野町西大沢地区

昭和六十一年度から魅力あるまちづくり事業として、西大沢地区内の旧大沢野中学校跡地で整備が進められていた「ふれあい広場」が完成し、平成元年四月に竣工式が行われました。

数年間遊休地として放置してあり、土砂捨て場ようになっていただけに、「ふ



れあい広場」の完成は、西大沢野地区の人々にとって大変うれしいニュースでした。

完成したふれあい広場には、憩いの広場、親水空間、ちびっこ広場、ゲートボール場などのほか、県内でも数少ないカリヨンの時計塔が設置されており、子どもからお年寄りまでがゆったりくつろげるふれあいの場となっています。

この「ふれあい広場」の完成は、地鉄笹津線の廃止や中学校の移転などで地域のコミュニティが低下し、地域の衰退が危惧されていただけに、住民にとっては明るい希望となりました。事実、住民による花壇の管理や広場を利用した交流ゲートボール大会、バーベキュー大会等多くの行事が実施され、これまで停滞していた地区活動が活発になりつつあります。

「ふれあい広場」は、子供から老人までが日常的にふれあい、近年失われつつある年代を超えた交流を促進し、貴重な憩いの場としての役割を担うものです。

二十五曲のメロディーを美しい鐘の音で奏でるカリヨンの時計塔や、日本庭園風の趣を見せる親水空間は一見の価値があり、訪れる人々には、大変好評のよう

「ふれあい広場」、「友遊広場」

大門町大門地区

大門町の大門地区にある、二つの広場。富山県まちづくりモデル事業により昭和六十二年度から平成元年度までの三年間で完成しました。二つの広場は、大門町の旧役場庁舎跡地に設置されています。ここは中心市街地として人口が過度に集中していますが、役場庁舎の移転と近年のマイカーショッピングに対応できずに活気が失われつつある商店街をかかえ、地域の活性化をはかる必要に迫られています。

大門町総合会館敷地内にあるのがふれあい広場で、モニュメントやベンチなどが設置されています。また、総合会館東側にあるのが友遊広場で、モダンでユニークなステイジがあり、各種イベントが行える多目的広場です。友遊広場という名称は、この多目的広場の愛称で、広く一般公募をした中から選ばれました。名前のとおり、子供同士、大人同士が、そして親子が楽しく遊べる広場になるようにと、町民からも期待が寄せられています。

広場がつくられたことにより、商工会や各種団体が、多くのイベントを開催しています。また、外観も美しく子供達が遊ぶスペースとしても安心して利用できる大変好評です。



PIN-UP TOYAMA

国泰寺開山忌 (高岡市)

撮影 / 松浦義一

しゆくしゆくとして

修業の列

妙なる調べ

森にこだまして



しずかに夏がかけだす

大蔵の巻

大門の大門



「人間、一生勉強」と言います。

レポーター：中口真弓さん(ミス牛岳クイーン)



充実した人生を送るためにも、興味あることについて、ゆっくり勉強してみようと思いませんか。
皆さんが学ばれた知識を、ボランティアやふるさとづくりに生かしてみたいかがでしょうか。
生涯学習室では、「出あい ふれあい 学びあい」をモットーに、皆さんの「やる気」を応援しています。

人は生涯を通して多くのことを学んでいます。どこにいようと、何をしようかと、そして何歳になってもです。いつも自分を高めてくれるのは学生時代の成績ではなくて、その時々に応じた学習に対する意欲ではないでしょうか。しかし、その意欲があっても学習する場所、資料がなければ



然の家」や「青年の家」などがあります。

私の場合も、学生時代に経験した自然の家での楽しい思い出が今も鮮やかに心に残っています。豊かな自然に囲まれ、学校では学ぶことのできない楽しい体験をさせていただきました。このような、実体験を通して「生きた学習」が、人間形成においてとても大切なことなのではないでしょうか。

次に訪ねた「県民カレッジ」は、生涯学習に関する情報を提供、相談をしています。特に今年は、各市町村と、コンピューターのオンラインで生涯学習に関する情報をやりとりする「情報ネットワークシステム」が本格稼働の運びとなり、より迅速に県民のニーズに応えることができるようになったということです。またタイムリーな文化人や著名人を招いて、興味深いテーマで講演していただく夏季専門講座が開かれるという耳よりな情報も聞きました。みなさんも受講されてはいかがでしょうか。

最後に私は「県立図書館」を訪ねました。ここでも「県民カレッジ」同様、県民のニーズに答えるためにコンピューターがとり入れられていました。実際、コンピューターを使っての貸出の操作を見せていただき

その意欲は満たされません。そこで私は、県民がいつでも好きなときに学べるように条件の整備や援助をしている「生涯学習室」を訪ねました。

「生涯学習室」は、新しい風、生涯学習「あなたの学習を応援します」をキャッチフレーズに、私達の学習をバックアップしてくれるところです。出先機関には、生涯学習実施の県下の中心機関であり、県民の学習の拠点である「県民カレッジ」や学習の基本資料である図書等の提供、知るところを求める人のための窓口である「県立図書館」、青少年が自然での生活体験をとおして、豊かな心とたくましい体をつくる「自



ましたが、本当に簡単な操作で、何万冊の蔵書の中から必要な一冊を探し出すことができるのには驚きました。

生涯学習室では、県民の心のふれあいを深め、生きがいを満たすような「生きた学習」を推進することによって、安定した、潤いのある社会づくりを目指しています。それが人づくり、ふるさとづくりの基礎となり、富山の土台となっていくのだと思います。



▲県立図書館ではじまったコンピューターによる貸出システム

とある記
さるある
ふるみ

利賀村

自家製粉したそば粉を使い、そば粉100パーセントの新そばを打つ店は珍しい。
今年四月にオープンした「利賀そばの郷」の「ごっつお館」はそんなお店。そこで究極のそば料理に腕を振っている中島信隆さん。もとは和食の調理師をしていた。

究極のそばの味は？



▲利賀そばの郷の「ごっつお館」



▶究極のそば料理に腕ふるう中島信隆さん

「独立したいなあと思っていたところに丁度『ごっつお館』の主人にならないかという村の呼びかけがあったね。環境もいいところやったし。利賀村の村制百周年を記念して建設された「利賀そばの郷」。「いろり庵」を中心にそば文化を紹介する「そばの館」、そば打ち体験ができる「そば打ち館」、これを食べ楽しむ「ごっつお館」からなり、すべて木造。この「そばの郷」づくりのアドバイザーに迎えられたのが、世界のそば博士として有名な信州大学の氏原暉男教授。氏原先生の紹介で中島さんは日本一のそば打ち名人として知られる会津若松「桐屋」の御主人唐橋宏氏のもとで一年間みっちり修業を積んでUターン。

中島さんの一番のおすすめ品は「そば会席」。これは「そば豆腐」やそばの実でつくった「そば粥

(かゆ)」「岩魚とそばの実のあんかけ」など季節に応じたオリジナル料理で、予約制である。手軽に食べられる「振舞そば」もおすすめ。
そばは前の日から準備しておく、こしがなくなつてほろほろと切れっぽくなってしまうので、使うその日に打つ。お客さんが多い日には、朝五時からそば打ちをするという。
「そのうち器もそろえて、季節に応じたものを盛りつけて。」「夢は限りなく広がっていく。」「いい雰囲気でもいいものを食べてもらいたい。そばは心で打つんですから。」
中島さんの「心で打つそば」じっくり味わって食べたいですね。

心のオアシスを求めて

利賀村は、世界で唯一そばを主食とするネパールのツクチェ村と友好関係を結んだ。



▲マンダラ絵師サシ・ドージ・トラチャンさん

去年「そばの郷」竣工式に招かれたマンダラ絵師の一人、サシ・ドージ・トラチャンさん(親しみを込めて呼ばせてもらうことにする)は、その折見学した日本の仏蘭の仏画・壁画にいたく感動。利賀に留まってマンダラ画を描きたいと希望した。

折よく利賀では、大自然に抱かれ、瞑想にふけりながら精神を耕す現代人のオアシスの場。「瞑想の郷」の構想も進んでいて、トラチャンさんの意向をしつかりとキャッチ。瞑想の郷の中心になるマンダラ・ホールの壁四面に極楽絵図・地獄絵図・千手観音・あみだ如来のマンダラ絵四枚を描いてもらうことになった。床にべたつと座ってもよし、立ってもよし、ねころがってもよし自由に観賞しながら瞑想にふけることができる空間である。

トラチャンさんは、今、利賀村でその絵を制作中である。マンダラのことを話す彼の目は燃えて、言葉がとめどもなく流れ出て来る。「絵はなかなかほかどりません。質の高い、いいものを描きたいのです」と。

チベット仏教の教義はもちろん、マンダラ画を理解できる人は多くはない。それでもトラチ



ヤンさんは、「私のマンダラが、人々のピース・オブ・マインド(心の安らぎ)を得る何かのきっかけになれば」と願って一筆一筆描き続けている。利賀村の静なる空間の完成が待ちどおしいですね。

今売れっ子の薬味酒

マタタビ酒

「マタタビ酒は神経痛によう効くがや。おねしよも直るし。子供でも飲める。マタタビドリソク」もあってね。若い女性には「命水」という焼酎が人気あるがやちゃ」と、マタタビ酒造の高田保信さん。マタタビ酒は今「売れっ子」の薬味酒である。

マタタビの実は、そのまま食べるとえぐいという。九月十月頃に柿色に熟し、利賀村ではそ

れを「山なんば」として使っていた。それを焼酎につけてみたところ、りんごのような甘ずっぱい香りがしてとてもおいしかった。これがマタタビ酒の始まりである。
マタタビ酒には、薄めたはちみつや水あめが入っていて、さらっとした甘さがある。アルコ



県内では立山開発鉄道の売店を始め、富山、高岡駅にはマタタビ酒コーナーがあるほか、名古屋、広島など全国各地でも売られている。
「初めの二、三年は、『マタタビ酒?ネコの薬でしょ』って相手にされなんだけど、今はよう売れますなあ。長野県の浅間温泉でもたくさん売ってくれるがや。うれしいことですちゃ。」
高田さんが意気揚々と語ってくれたマタタビ酒。このところ疲れ気味で体調のすぐれないアナタ一杯いかがですか?身も心もほっかほっかになります!

利賀村の概要
人口 1,246人
面積 176.38km²

合掌造りを活用した利賀山房やギリシャ風の野外劇場がある合掌文化村では、夏に世界各国から舞台芸術を集めて、演劇祭が行われる。そば粉100%の手打ちそばや、山菜料理、どぶろく酒が味わえる秋の山まつりや冬のそば祭りも好評を博している。



6月は「土砂災害防止月間」です

日頃から 備えを！

雄大な山々や、流れが速く変化に富んだ川。雪解けの春から梅雨、暑い夏を経て台風、そして雪の冬など多彩な四季。私たちの国日本は、このように美しい自然に囲まれています。しかし、その美しさがそのまま脆弱な地質、荒廃した地盤を作り出し、土砂災害の多発する原因を形造っているということも、また事実です。恐ろしい土砂災害から人命や財産を守るために、県では従来から積極的に対策工事の施工を進めています。

しかし、土砂災害の危険地域は、県下に数多くあり、すべての危険箇所を整備し終わるまでには、まだまだ長い時間がかかります。土砂災害から尊い人命を守るためには、ここ当分の間は施設の築造だけでなく、みなさんひとりひとりの日頃からの十分な理解と備えが重要です。

◎土砂災害には、次のような種類があります。

土石流



大雨や長雨、地震などがきっかけで大量の土石が水とともに流れ出し、家屋や道路などを押し流す恐ろしい災害です。

流れの先端部に大きな岩があることが多く、破壊力も土砂災害のなかで最大。流れる速度(時速)も二十〜四十キロメートルものスピードを持っています。

よく被害を受けるのは、急な谷川や谷の出口の扇状地です。

地すべり



地下水の影響で、地中の粘土などのすべりやすい層を境にし、そこから上の地面がそっくりすべり出すのがこの災害。その被害も広い範囲にわたるのが特徴です。

ふだんは一日に〇・〇〜十ミリメートル動く程度ですが、大雨や地震などが原因で突然動く速さを増すことがあり、移動する土砂の量が多いため、すべる地面の上や地面のすべり落ちる先にある人家や道路などに大きな被害を及ぼします。

地下水変化のバロメータとなる池や井戸などの湧水が急に増えたり、濁ったりしたときには注意が必要です。

がけ崩れ



大雨、長雨や地震などがきっかけとなり、急な斜面が崩れ落ちる恐ろしい災害です。発生する場所や時間が予測

しにくく、崩壊速度が極めて早いために、亡くなる人も多い災害です。特に勾配が三十度以上のがけはすべて災害発生の可能性を秘めていると言われており、油断は禁物です。なかでも亀裂や浮き石、わき水があったり、オーバーハング(突出)しているがけは危険です。

雨が降ったら 黄信号



土砂災害のひきがねとなるものには雨や地震、雪解け水がありますが特に雨には要注意。一時間に二十ミリ以上の大雨や、降り始めてからの雨量が百ミリを超えた場合には、土砂災害の発生する危険が高くなります。

近くに危険地域のある家庭では、気象情報に注意し、あぶないと思ったら早めに避難することが必要です。

農薬の適正な 管理を

農薬の散布中の事故は減少傾向にありますが、依然として跡を絶たない状況にあります。また、農薬を本来の用途以外に使用することによる事故も、発生しています。

このようなことから、今年も全国的に農薬危害防止運動が、六月十五日から七月十四日までの一カ月間実施されます。富山県でも農薬及びその販売、使用方法に関する正しい知識の啓蒙普及などを行いますのでご協力ください。農薬による事故を未然に防止するため、散布作業に従事するときは、十分注意してください。また、農薬の用途外使用や誤飲がないよう次の点に気を付けてください。

- 安全な場所に鍵をかけて保管するなど、保管管理には十分注意すること。
- 清涼飲料水の容器などへ移しかえないこと。
- 使い残しの農薬や空容器は、適正に処理すること。
- 農薬による危害が発生したときは、速やかに医師の診察を受けてください。



不正大麻 撲滅運動

7月14日まで

《大麻》
一般に「アサ」と呼ばれ、種子は鳥の飼料として、また茎皮は麻糸として使用されています。

しかし、幻覚を引き起こす物質が含まれているため、栽培するには許可を受けなければなりません。

《けし》

けしは「ひなげし」「おにげし」のように植えてよいものと、あへんを含んでいるため、一般家庭での栽培が禁止されているものがあります。

例年、植えてはいけないけしを間違っって観賞用に栽培している例が見受けられますので十分注意してください。

なお、不正栽培や自生している大麻やけしを発見したときは直ちに最寄りの保健所または警察署へ連絡してください。

派出所、駐在所は 身近な相談室

警察は、昼夜の別なく、常に県民の日常生活の安全と平穏を守っています。このため、派出所や駐在所の警察官は皆さんの要望や意見を聞き、皆さんと力を合わせて犯罪や事故のない安全で住みよい地域社会づくりに努力しています。

家庭を訪問した警察官や最寄りの派出所、駐在所の警察官に次のようなことがあれば気軽に申し出てください。

- ◎犯罪の予防や各種事故の防止
- ◎交通安全や取締り等についての要望、意見

◎家族の心配ごとや悩みごと
このほか、家出、酔っぱらい、公害や騒音、迷惑事案等どんなことでも遠慮なく申し出てください。

要項、ご意見は
お気軽に



平成2年度県民カレッジ

暁天講座

テーマ 心の時代をひらく

期間 7月9日(月)～7月14日(土)
 時間 午前6時30分～8時
 会場 県民会館三〇四号室
 定員 二〇〇名
 申込 6月11日(月)より資料代五〇〇円を添えて
 県民カレッジ(TEL〇七六四四二)八六三五(代表)

月日	講師	演題
7月9日(月)	富山医科大学教授 和漢薬研究所所長 難波恒雄	「食とこころの問題」
7月10日(火)	富山大学 教育学部教授 中川 眸	「栄養と健康」
7月11日(水)	文芸評論家 北日本新聞論説顧問 兼久文治	「光と影―日本人の心の一断面―」
7月12日(木)	西能病院理事長 西能正一郎	「生命あるかぎり」
7月13日(金)	富山女子短期大学助教授 金岡トモコ	「言葉はかるた日本のすまい」
7月14日(土)	新潟大学学長 津田禾粒	「世界の人々と自然―その過去と未来―」

技能講習会のお知らせ

技術専門学院及び富山・黒部・福野職業能力開発センターでは、働く皆さんのための技能講習会を次のとおり実施いたします。

実施コース名	日時・場所
ワープロ入門 (基本知識・操作方法習得)	●日時 六月四日(日)～六月七日(木) ●実施場所 技術専門学院
パソコン講座 (Eビジネス応用)	●日時 六月四日(月)～六月八日(金) ●実施場所 福野職業能力開発センター
財務ソフト会計入門 (大番頭)	●日時 六月十一日(月)～六月十四日(木) ●実施場所 技術専門学院
パソコン講座 (初級)	●日時 六月十一日(月)～六月十五日(金) ●実施場所 黒部職業能力開発センター
ワープロ入門 (ワープロ基本操作)	●日時 六月十一日(月)～六月十五日(金) ●実施場所 福野職業能力開発センター
パソコン簡易言語コース (ロータス・2.3(A)シミュレーション)	●日時 六月二十五日(月)～六月二十八日(金) ●実施場所 技術専門学院

◀受講料(教材費) 各コース一律3,000円
 ◀訓練時間帯 各コース/17時45分～20時40分迄
 ※詳しくは、各実施施設にお問い合わせ下さい。
 技術専門学院 〒930 富山市向新庄327 ☎(0764)51-8802
 富山職業能力開発センター 〒930 富山市向新庄274 ☎(0764)51-3504
 黒部職業能力開発センター 〒938 黒部市荻生3200 ☎(0765)52-0251
 福野職業能力開発センター 〒939-15 東、福野町寺家301-1 ☎(0763)22-3152

「少年の主張」

作品募集

対象/県内の中学校又は特殊教育諸学校 校中学部の生徒
 内容/学校、家庭、社会及び身の回りや友達等とのかかわりの中で考えていることや感じていることをとりまとめたもの
 応募/四百字詰め原稿用紙四枚程度にまとめ、各学校に提出してください。
 発表/原稿の選考により、約十名の方には、八月二十日(月)に、魚津市民会館で開催する「第十二回少年の主張富山県大会」で発表していただきます。
 締切/各学校で定める日(市町村教育委員会又は特殊教育諸学校から県婦人青少年課への推薦期限、六月三十日(土))
 ※詳しくは、県庁婦人青少年課まで

平成2年度 工業統計調査 広報用ポスターの公募

通商産業省では、十二月三十一日実施の工業統計調査のPR用ポスターを、次のとおり募集します。
 ●内容 製造業を営む事業所の方々が、工業統計調査に対する理解を深め、調査への協力が得られるような内容で、未発表のもの。
 ●規格
 (1)サイズ：A2版(縦五九cm横四二cm)で縦長に使用(色は四色以内)
 (2)図案：「通商産業省」「工業統計調査」「平成二年十二月三十一日」の文字を必ず入れてください。
 ●応募期間 平成二年六月三十日まで(当日消印有効)
 ●応募先(問合せ先) 〒九三〇 富山市新総曲輪一の七 富山県総務部統計課商工係 0764-314111(内線407)
 ●入選者の発表及び賞状の授与等 八月末日までに、通産省から本人あて通知されます。
 ●最優秀賞 一名 賞状と十万円
 ●優秀賞 二名 賞状と三万円
 ●優良賞 若干名 賞状と記念品
 ●学校努力賞 若干校 賞状と記念品
 なお、応募資格に制限はありません。

県政の動き

平成2年4月11日～5月10日

4月15日 いきいき富山観光キャンペーン'90オープニングセレモニー



4月16日 富山県立大学入学式
臨港道路北線「新港大橋」竣工式

4月21日 富山・名古屋週末特別便第一便就航記念式



帆船海王丸歓迎式並びに勸伏木富山港振興財団及び帆船海王丸記念財団事務所開所式
鯉のぼり掲揚

4月23日 街頭苗木配布

4月25日 県立図書館電算機システム完成式

4月26日 岩瀬スポーツ公園パークセンター開所式
都市計画道路北島牧野線・米島大橋竣工式
英国大使知事表敬訪問
立山博物館起工式



4月27日 花の万博「富山県の日」

4月28日 帆船海王丸富山公開記念式典

4月29日 とやまフラワーアート'90オープニングセレモニー

5月8日 春の叙勲伝達式



5月9日 「とやま賞」贈呈式

県営住宅入居者募集

1 身体障害者向住宅2戸

県では、根椋県営住宅にある身体障害者向住宅二戸(車椅子利用者向と松葉杖利用者向各一戸)の入居者を募集しています。両住宅とも身体障害者の方が自立した生活を営めるよう工夫された設備を設けています。

一、四級の障害のある方が対象。入居資格等詳しいことは左記まで。

問合せ 建築住宅課

2 夏完成予定の南県営住宅24戸分

県では、この夏完成予定の富山南県営住宅二十四戸分の入居者を募集します。

間取りは二DK、二LDK、三DKの三タイプ、全戸サニタールーム付です。入居資格等詳しいことは住宅供給公社まで。

時 六月五日～十五日公募予定

所 富山市小杉九六〇
問合せ 富山県住宅供給公社 0764・32・5132

平成2年7月街頭献血日程

日	曜	場 所	時 間
1	日	小杉町パスコショッピングセンター前	10:00～15:30
2	月	砺波市役所前	10:00～15:30
7	土	高岡駅前	10:00～15:30
8	日	富山市中央通り	10:00～16:00
9	月	上市町役場前	9:30～12:00
		上市パルショッピングセンター前	13:00～15:30
12	木	新湊市役所前	10:00～15:30
14	土	富山西武前	10:00～16:00
15	日	富山西武前	10:00～16:00
16	月	入善町役場前	10:00～15:30
20	金	小矢部市役所前	10:00～15:30
21	土	魚津サンプラザ前	10:00～15:30
23	月	上平村役場前	10:00～15:30
28	土	高岡駅前	10:00～15:30
28	土	富山駅前	10:00～16:00
29	日	高岡駅前	10:00～15:30

近代美術館企画展



金賞/田中宏昌「冬のシンキロウ」(部分)

写真による (ドキュメント・トヤマ'90)

5月26日～6月24日

五年ごとに開催する写真展「ドキュメント・トヤマ」の第二回展。公募部門では、富山を取材した写真の中から入賞・入選作を展示。企画部門では、日本を代表するドキュメント写真家十人の作品を紹介いたします。

料金 一般六百七十(五百六十)円

高大生四百五十(三百三十)円

小中生二百八十(百六十)円

()内は団体

問合せ 富山県立近代美術館

0764・21・7111

「装いの歴史」

埋蔵文化財センター企画展



縄文時代の土製耳飾 (早川コレクション) (黒部市田家)

ガラス製飾玉 (小杉流通業務団地No.7遺跡7号墳)

県内から発掘された、原始・古代から近世までの装身具や装飾品を展示いたします。

各時代の装身具や装飾品の特色と、そこに秘められた人々の技術と美意識をさぐります。

期間 六月十三日(水)から十月二十日(土)まで

休館日 第二・四土曜日、日曜日、祝日

入場は無料

※詳しくは、富山県埋蔵文化財センター (0764・34・2814)

パソコン教室 受講者募集

パソコングラフィック教室

パソコンを使って絵をデザインし、ビデオプリンター等で印刷して作品をつくります。

日時 6月19日(火)、21日(木)、22日(金)

パソコン入門教室

パソコンについての基礎的な知識と操作、簡単なプログラムの作り方を教えます。

日時 六月二十六日(火)、二十八日(木) 二十九日(金)

パソコンビジネス利用教室

家庭や職場や個人でパソコンを表計算、グラフ処理、データ検索等に利用します。

日時 七月十二日(木)、十三日(金)

場所 富山県情報教育センターへ
※詳しくは、富山県情報教育センターへ 0766・56・7161

ウッドルーム富山

日曜大工教室

内容 木目のきれいな、「あたたかみのある」「郵便受箱」、「状差し」作り

材料費 「郵便受箱」千七百五十円

「状差し」 百円

日時 「郵便受箱」六月十日(日) 「状差し」六月二十四日(日) いずれも午前九時より

ウッドクラフト教室

内容 木目のきれいな「ブローチ・ペンダント」作り

材料費 二百五十円

日時 六月三十日(土)午後一時三十分より

◎場所 ウッドルーム富山 (小杉町黒河新四九四〇)

◎問合せ 0766・56・1570



表2 エッセイ/北林吉弘氏

P1 ひと/橋本英園さん

P2 クローズアップ

①海王丸一般公開スタート

②知事のましまわり/大門町

③花博「富山県の日」

④富山県植樹祭/山田村

《特集》魅力あるまちづくり

P12 PIN UP TOYAMA

国泰寺開山忌 撮影/松浦義一

県庁探訪/生涯学習室

P16 ふるさとみてある記/利賀村

P14 県からのおしらせ

●表紙/海王丸キャブテン篠塚卓真さん

帆船海王丸の一般公開がスタートした

その日、篠塚キャブテンはまさに「船

長」の風格でした。トップに立つ人は

どうしてこんなにカッコイイのでしょ

う。その彫りの深い顔にあたたかい抱

擁力を感じました。

撮影/滝川邦彦(日本写真家協会会員)



交通事故については

富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764) 31-4111内759

相談110番

家庭問題・悪質商法・寛
せい剤など、どんな相談
にも応じます。

シルバー110番

高齢者や家族の心配ごと、
悩みごとに富山県高齢者
総合相談センター
富山市舟橋南町5-14
社会福祉会館内
☎(0764) 41-4110

消費生活については

消費生活センター
富山市安住町7-18

安住町第一生命ビル内
(一般相談は)
☎(0764) 32-9233

(金融相談は)
☎(0764) 33-3252

消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1
本丸会館内
☎(0766) 25-2777

県政については

県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764) 31-4111代

高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766) 21-9411代

魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765) 24-5311代

砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763) 33-5151代

みなさんの相談窓口

県からのホットニュース ▶KNB「こんにちは富山県です」の放送時間が
毎週日曜日午前9時30～10時になりました。

TV RADIO NEWS PAPER

テレビ広報 ●北日本放送 毎週日曜日 AM9:30～10:00
「こんにちは富山県です」
6/3 県土をより美しく～環境週間スタート～
6/10 舞台はとやま 映画「少年時代」
6/17 魅力あるまちづくり
6/24 あなたの職業能力の開発をお手伝いします。
●富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30
「110万人のひろば-クイズ/フォーカス-イン」

ラジオ広報 ●FMとやま
「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をク
リアなサウンドでおとどけしま
す。
毎週月～金曜日 AM9:30～9:35

新聞広報 ●北日本、富山、読売、北陸中日
毎月第2土曜日
「県からのお知らせ」
毎月最終土曜日
「みんなの県政」
●朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

編集後記

★取材で伺った宇奈月町の橋本さん。鉄工所の仕事を終えたあと絵の制作に取り組みという大変ハードなそして、充実した日々を過ごしておられます。私も何か始めようといういろいろ考えてみましたが、考えているうちに眠ってしまったという、何とも変わりはえのしない毎日を送っています。芸術は遠きにありて眺めるもの(M)

★究極のそばの食べ方。ざるそばを名水につけてつるつる。そばそのものの味。ごまかしがきかないからよさが分かる。というけれど、今度試してみようかな。(N)

★初めましてノ県庁に入庁して、最初の配属がいきなり広報課ということ、ビックリしています。とにかく今は、カメラを肩に、フィルムをポケットに入れ、無我夢中で走り回っているという感じですよ。

※知恵と汗を出して、少しでも面白い広報誌づくりに頑張りたいと思います。(T)



凍とろけた、完結の世界

YKK前沢ガーデンハウス
昭和57年 設計：榎 文彦



とやま心象26

富山の建築百選「をみる」

この作品を始めて目にしたとき直観的に「あ、これはシャトーだな」と思った。シャトーというのはフランスの城館のことである。大砲の出現で堅固な城が無意味になった十六世紀以降、城は邸宅化して遂には宮殿となるのだが、城館、シャトーは城と宮殿の中間の形態の領主貴族の邸宅で、多く風光明媚な自然の中に建っている。領主の館であるから、美しさと威厳を兼ね備えた華麗なデザインのものが多く。

豊かな緑に囲まれ、芝生におおわれた丘の緩やかなスロープの上に、切妻の屋根を頂いた背の高い気品のある、凍とろけたシルエットのこの建築を見たとき、このシャトーの持つ美しさと威厳、つまりシンボル性に共通するものを感じたのである。実は、ここに滞在したことがあり、その経験からもその感を深くした。つまり、この施設は様々な処から様々な人々が集まって生活を共にし、討論その他を通じて、問題や相互の理解を深める研修施設であって、それは、多くのひとが訪れ滞在し、社交し、生活する宮廷に似たところがあるのである。

中心に、高い吹き抜けを持ち、なだらかな丘の斜面に向かって開いた大きなホールを配するが、これは宮廷ならばさしずめ、領主を中心に皆が集まる大広間と呼んで良い社交の場である。太いコンクリートの柱とそれに直交すると梁を見せた、この広間のデザインは、明らかに日本の民家の、例えば砺波の「あずまだち」民家などのヒロマに範をとったものである。この、ホール

の二辺を囲んで研修者の宿泊する個室が並んだ切妻屋根を架した宿泊棟が配されている。半透明のガラスケースに囲まれた螺旋階段が、そこからホールへ降りており、ホールにシンボル性を与えている。この段階室上部はホールの上に突き出て、四角錐の屋根を持つ塔屋となり、外観的にもシンボル性を持っている。ホールに連続して、暖炉を備えたラウンジがあり、ホールとは異なったインチャイメントな雰囲気交流の場にも配慮してある。

椅子、テーブル、照明器具その他の家具も、総てこの建物の為にオリジナルデザインされたもので、ユニークで美しい形態を持つと共に、建築のデザインと呼応して、一つの完結した「かたち」の世界を形づくっている。トータルデザインならではの豪奢で洗練された雰囲気である。

解説/竺 覚暁(工学博士金沢工業大学教授)
写真/風間耕司(日本写真家協会会員)



まちづくり月間 6月1日→30日